

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21226013	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	「混ぜない」、「集めない」をコンセプトとした資源回収型排水処理技術の開発と評価	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	船水 尚行（北海道大学・大学院工学研究院・教授）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、「混ぜない・集めない」という基本理念を提唱して、それに基づいた新しい排水処理体系を創成しようとするもので、持続可能な社会の実現に資する壮大なテーマに取り組んでおり、国際貢献にも寄与できる社会的意義の高いものである。しかしながら、システムを構成する4つの要素技術群の開発はあまりに多岐にわたっており、個々の開発テーマの位置づけが明確でなく、相互の有機的な繋がりが希薄である。また、研究進捗状況報告書にある要素研究の成果のいくつかは、代表者のこれまでの前駆プロジェクトからのアウトプットである点も気にかかる。個々の要素技術群を今後の現地実証試験にどう組み込んで、さらに技術システム構築に向けてインテグレートしていくことに、今後一層の努力が必要である。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究は6つの要素技術に関する研究と、それらの成果の現場での有効性を確認し、改善へのフィードバックを得るためのサイトでの現地実証研究からなる。要素研究に関しては、その成果の学術誌への発表の数は多いとは言えず、特に研究後半の発表が少ないことが懸念される。今後の努力に期待する。また、提出された代表的論文3編においては、基盤研究（S）による成果であることが触れられていない、あるいは他の大型研究と並列で基盤研究（S）が記載されているなど、本研究により行われたものであるかを確認できず、問題である。現地実証研究は国内外3箇所で行われており、その努力は大いに認められるが、今後の展開に繋がる具体的な成果が明瞭ではない。これについても努力を期待する。</p>
A-	